

8. ^{99m}Tc -MDP の両側腎び慢性異常集積の定量化の検討

角原 紀義 桂川 茂彦 佐藤 隆一
高橋 恒男 柳澤 融 (岩手医大・放)

^{99m}Tc -MDP による骨シンチにおいて両側腎び慢性異常集積“hot kidneys”に対し、その定量化を試み検討したので報告する。

対象は昭和58年1月より昭和59年9月までの1年9か月に施行した骨シンチ 1,100 例中に hot kidneys を呈したものは7例で出現頻度は0.63%であった。

“hot kidneys”の判定基準として腎/腰椎のAccumulation Density Ratio (Accumulation Density Index) をもとめ、対照群と比較すると、両者間に明らかな有意差を認めた。

よって Accumulation Density Index は“hot kidneys”の判定基準の指標として有用と考えられた。

今後ますます悪性腫瘍に対する強力な化学療法が行われるため、hot kidneys をみる機会も多くなると思われるので、この hot kidneys の診断に際する骨シンチもコンピュータ核医学処理システムにて収録、解析すれば客観的に評価できるものと考えている。

9. Sternocostoclavicular hyperostosis の骨シンチグラム

丸岡 伸 中村 護 (東北大・放)

1976年2月から1984年7月までに、当科で骨シンチグラフィを施行した sternocostoclavicular hyperostosis の17症例、計31件の骨シンチグラムを供覧し、経時的変化について報告した。対象は男性6例・女性11例、年齢19～62歳、平均43歳、掌跖膿疱症の合併12例、慢性扁桃炎の合併9例である。異常集積は主とした胸鎖肋部に認められたが、17例中2例では異常集積が下位肋骨の胸肋関節部や剣状突起部にまで及んでいた。扁桃摘や消炎剤投与により症状の改善が認められたものでも、骨シンチグラム上の異常集積に改善は認められなかった。仙腸関節部に異常集積をみたのは1例のみであった。胸部単純撮影で異常影がみられるよりも広範囲に異常集積が認められることから、本症が疑われた場合には、骨シンチグラフィが有用であると思われた。

10. 骨シンチグラフィにて多彩な臓器集積を呈した高Ca血症の1例

吉川 裕幸 浅野 章 高橋 康二
西野 茂夫 菊池 雄三 天羽 一夫
(旭川医大・放)

骨髄転移をきたし、腎不全と高Ca血症を合併した悪性リンパ腫に施行した骨シンチグラフィにおいて、肝臓・肺・心筋・胃に骨外臓器集積を認めた稀な症例を経験した。剖検は行われておらず、その原因については推論の域を出ないが、病態から、あるいは文献的に考察すると、多臓器に異所性石灰化巣が存在しており、そこにTc-99m リン酸化合物(MDP)が集積したものと思われた。また肝臓への集積は、何らかの機序によりコロイドが形成された可能性も強いように考えた。

11. 上大静脈症候群と側副血行路の検出

平野 富男 井沢 豊春 手島 建夫
蝦名 昭男 今野 淳 (東北大抗研・内)

RI venography が上大静脈症候群(SVC)の診断および治療効果の判定に有用であるか調べた。

以下の5群に分けた。I群;正常例, II群; SVCを合併していない肺癌例, III群; SVCを合併している肺癌例, IV群; 炎症性肺炎または良性腫瘍例, V群; 縦隔腫瘍例。Tc-99m MAAを前腕より静注し、 γ -cameraを上縦隔に位置させdataをcomputerに収録し解析した。

① RI venography 上, I群とIV群では全例とも腋窩、鎖骨下、腕頭、上大静脈とsmoothに描出された。II群では6例に、III群では全例に、V群では2例に側副路が描出された。腋窩静脈に放射能が出現してから肺野に達するまでの時間は、III群では14秒台で他の群は、7, 8秒台であった。② SVCを合併している8例で治療効果判定のためくり返しRI venographyを施行し2例で著明な改善を認めた。

RI venographyは簡便であり被検者への負担が少なく、上大静脈症候群の診断および治療効果の判定に有用である。